

学校だより

2023年9月から11月までの 資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●9月3日 品質管理（QC）検定4級（3年）

●9月5日 技能士2級電子機器組立て実技（3年電気科）

●10月6日 実用英語技能検定1次11月5日2次（全学年）

●10月13日 リスニング英語検定（2年全員）

●10月23日 溶接技能者評価試験（JIS検定）（2年溶接科）

●11月17日 計算技術検定（1、2年）

1年生工場見学

9月6日、日立ビルシステム水戸事業所様にご協力いただき、生徒は貴重な体験をすることができた。コロナ感染も落ち着かない状況、または業務多忙の中で、本校生の見学を受け入れてくださった事業所の皆様に御礼申し上げます。この見学は、1学年後期10月からの科分けに関するキャリア教育として、「工場を訪問し、実際に現場を見学することで、より正しい認識を持たせること」「自分のキャリアを考えさせ、科選択につなげていけるように



1年生工場見学

すること」を目的としている。電気・機械・溶接の各現場を見学させていただき、生徒は将来の働くイメージが構築できたようである。以下、帰校後のグループワークで出た感想を掲載する。
・今の気持ちだけで科を選ばずに、将来のことを意識しながら、自分が何をしたいかを考え、科を真剣に選びたいと思った。
・3年後に働いている自分を想像しながら見学をした。電気科だと考えていたが、今日の見学で他職場も興味深く、どの科を選ぶかをもっと深く考えようと思った。
・実際に現場を見ることで、仕事についてのイメージや「自分がやっていたら」などの想像ができ、科分け選択の材料になってとても良かった。
・工場見学を行い、様々な職種や役割があることを知り、自分の将来のイメージを膨らませることができた。

1年生は入学して半年経過したが、このような経験をすることができ、他校には無い「日専校で学んでいる醍醐味」を感じることができたと思う。学校での教育を元に、事業所との連携を活かして、各事業所へ優秀な人材を送り出せるよう指導していきたい。

2年生新リーダー研修会

後期10月から、3年生が学校を離れ、各配属工場で終日実習が始まる。学校は2年生が主体の体制に変わる。そのため、学校、寮、部活動の各リーダーをそれぞれ3年生から2年生主体に引き継ぐべく研修会を実施した。昨年度までは、学校は生徒会、寮は寮役員、部活動は部活動リーダーの3つの組織がそれぞれ運営していたが、今年度から、考動アクション委員会を立ち上げ、そこに学校、寮、部活動の各委員会を置き、統一して運営していくことに組織変更した。研修では、この1



部活動リーダー研修会

年間の振り返り、反省、これからの目標、計画などを、グループごとに議論し、最後に全体で発表して内容を共有した。3年生の旧リーダーには、この1年間、コロナ禍で例年通りに実行できない中、これを契機に運営方法をより良く見直し、実行してくれた。その努力に感謝したい。新体制にも引き続き努力を引き継ぐと同時に、改善を実行し、生徒自身が有意義な学校、寮、部活動にできるよう、リーダーシップを発揮してほしい。

学校委員会「誰かのために すすんで考動できる人財」

委員長 2年電気科 猪口 健太



こんにちは。学校委員会委員長になりました猪口健太です。まだまだ自分自身に足りない部分もたくさんあって、不安なこともあります。考動アクション委員会の4人の委員長と協力していき、新たな動きを取り入れていき、生徒全員が成長できる学校をつくりあげていきたいと思えます。また、一人ひとりがもっと主体的に動けるように、生徒の活動をサポートしていけるように頑張っていきます！よろしくお願致します。

寮委員会「みんなで作ろう 住みやすい寮」

委員長 2年電気科 草野 環太



こんにちは。この度、寮委員会委員長となりました草野環太です。不安な所

は沢山ありますが、去年の良い習慣はそのまま継続して行い、問題点を改善していった、より良い寮にしていきます。また、寮生活を通して寮生一人ひとりが人間力を向上できるように、相互の指摘と気遣いを重視し、日専校生として高い基準をつくり上げていきます。今後も寮生活を通じて成長し続け、会社で必要とされる人間力を身に付け、良い人財を目指し頑張っていきます！これからもよろしくお願致します。

部活動委員会「部活動を
通じた人間力の向上」
委員長 2年電気科 海老沼 凜乙



この度、部活動委員会委員長となりました海老沼凜乙です。今年から新しく始まる委員会なので不安はありますが、部活動をよりよい成長の場にするように頑張ります。また、先生方や仲間と協力して、部活動をもっと盛り上げていこうと思っております。これからも部活動を通して成長し、日立グループの各工場で即戦力になれる人財を目指し、頑張っていきます。よろしくお願致します。

2級電子機器組立て実技

技能検定「2級電子機器組立て実技」の資格取得をめざし、3年電気科電子コース内22名は8月27日に学科試験、9月5日に実技試験に臨んだ。本校で行われた学科試験では、全員が日頃の学習成果を発揮した。電子実習室で行われた実技試験では、4月からの電気実習（実質80時間）を通して習得した技能を發揮し、全員が課題を提出できた。今年度は、昨年まで実施していた部活動時間や休日を利用した、いわゆる「補習」を排除することを決め、与えられた実習時間の中で効率的な技能習得を図ってきた。効率化を図る上で、昨年に引き続きIT機器の活用はもちろん、生徒自身が「安全、品質、納期、コスト」に視点をおいたPDCAサイクルを回す習慣付け等を行った。また、「工場で活きる技



2級電子機器組立て実技

能習得」をテーマに作業方法や使用工具の見直しにも取り組んだ。今後は、これまで習得した技術・技能のみならず、「製品」に対する考え方を生徒各々が活かしてくれることに期待する。なお、本受験結果は、9月30日に茨城県職業能力開発協会HPに掲載され、12名が合格した。今後生徒の主体性を育んだ上で結果に繋げることが大きな課題となった。

若年者ものづくり競技大会入賞者茨城県知事表敬訪問

8月に静岡県で開催された「第18回若年者ものづくり競技大会」に本校から出場して入賞を果たした後藤宙那（旋盤職種）、三代健人（フライス盤職種）、鴨川生、松岡怜良（メカトロニクス職種）の4名が9月15日に茨城県庁を訪問し、大井川和彦県知事に受賞を報告した。本大会は、学校などでものづくりを学ぶ20歳以下の学生および生徒を対象とし、競技内容は、制限時間内に与えられた課題の組立精度や出来栄などを競うものである。当日は、各選手より大井川知事へ、旋盤・フライス盤・メカトロニクスの競技の特徴や工夫点など、各職種の課題・写真を見ていただきながら丁寧で紹介した。最後に大井川知事より「今後も活躍を期待しています」と激励のお言葉をいただいた。選手4名は、「次は技能五輪全国大会で活躍し、また県知事に良い結果を報告出来るよう頑張

ります」と抱負を語った。



若年者ものづくり競技大会入賞者茨城県知事訪問

3年生工場実習前面接、工場実習開始

例年、日専校では3年生になると、就職について現実的に意識し始める。部活動の、3年生にとっては最後の大きな大会と両立しながら、まずは6月の前期中間試験に力を注ぐ。夏休み前に実習先が決まり、履歴書の作成に着手する。夏休みが明ければ前期期末試験や、実習先工場の方との面接を経て、9月末に校内で3日間の実習前教育を受ける。この教育内で、校長先生の訓話、生徒指導・安全衛生講話により、実習に向けて気持ちを引き締め、整えていく。さらに外部講師を招いて、安全な社会生活を送るための知識を教示いただき、成人するにあたっての意識も高める。こうして、入学してからの2

年6ヶ月の学校生活を終え、今年10月3日、無事に全員が実習初日を迎えた。一緒に学んだ友とも離れ、社会に向けての第一歩を踏み出した。

AutoCAD基礎講座

9月25日、26日、日専校実習棟の視聴覚室において、AutoCAD基礎講座を開催し、3年生の技能五輪候補生および希望者17名が受講した。日専校では2年生までドラフターを使った手書きの製図実習を、3年生では読図の授業を行っているが、技能五輪の職種および事業所の職場でもCADを使った製図があることなどから、2021年度から本講座を開催している。2日間という短期間であったため、CADの機能を十分にマスターするまでには至らなかったが、受講生は興味を持って楽しみながら作図と読図を学べる有意義な体験になった。



AutoCAD基礎講座

1年生科分け、後期授業開始

1年生の前期半年間は、電気、機械、溶接の科分けをせず、専門科目や実習においても、全員が同じ授業を受ける。専門座学では「工業基礎」「電気回路」などで工業系の基礎を学び、実習では電気実習、機械実習（旋盤、仕上げ）で基礎的な技能を修得する。10月の後期からは3つの科に分かれて、より専門的な学習が始まる。そこに向けて、工場見学（電気機械、溶接の各配属現場を見学）、溶接実習体験、希望アンケート、生徒と担任との面談を経て科分けを行う。クラスとしては、電気科と機械溶接科（人数的に機械科と溶接科を1クラスとし、専門授業の時だけ分かれる）の2クラス体制となる。2年生も含めて、10月4日から後期授業が開始された。前期から続く科目もあるが、専門では新たに始まる科目もある。将来、自分が仕事とする専門分野なので、数学、英語などの一般科目も合わせて、基礎を理解した上で、より深く学習していってほしい。

1年生安全体感研修

日立事業所高等職業訓練校実習場2階で、1年生全員が6グループに別れてVR体感教育を受講した。安全の概要説明やVR教育を受け、日常では体感できない貴重な経験となった。今回の受講で生徒たちの安全意識も更に向上すると考える。

（7頁へ続く）

1年機械科 黒崎 優人
 私は今回の安全体感を受講して多くのことを知ることができました。講義では、講師の方が工場の安全の大切さを学校以上に詳しく教えてくださいました。また、災害の実例として、階段転倒、飛来落下、キックバックの3つについて、VRを使って体感することができました。どれも実際に起きたら恐ろしく、改めて災害の怖さを実感でき、これらに被災しないためにも良い経験でした。私はこの安全体感を通して、日頃のRKYの重要性を実感しました。これからは質の高いRKYを行い、事故や怪我を防いでいきたいと思えます。私たち1年生は、あと2年で工場実習が始まります。今回の安全体感を活かし、日々の学校生活の様々な場面で安全に気をつけて生活し、



1年生安全体感研修

(6頁の続き)

工場生活に備えたいと思います。 田中憲一執行役常務 来校・講話

10月13日、日立本社より田中憲一執行役常務 Deputy CHRO 兼 人財統括本部人事労務本部長が来校され、全校生徒と教職員へ講話をいただいた。「日立の概要と日専校の皆さんへの期待」と題された講話は、日立創業と日専校創立から始まり、現在の日立グループの状況、中期経営計画目標、求められる人財・組織像、技能五輪の実績と続いた。最後に日専校の生徒への期待として、①ものづくり人財の重要度②デジタル化への対応③学び続けることで成長し、働きがい、生きがいを得ること④人間力を身に付け、仲間を信頼し、信頼される人になることを話された。講話の御礼として、考動アクション

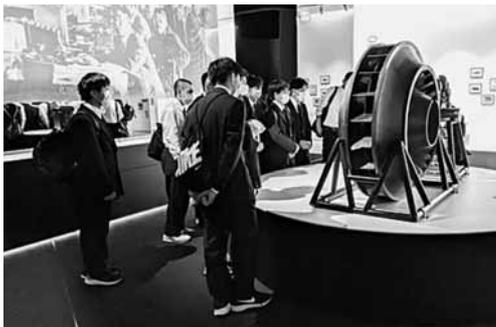


田中憲一執行役常務来校・講話

委員会委員長の2年電気科崎川真之介が、日専校で学び続けて、日立グループで活躍できる人財になることを誓った。また、11月に愛知県で開催される、第61回技能五輪全国大会電気溶接職種に、日専校在校生として出場する3年溶接科の黒田大貴、佐藤琉両名が決意を表明した。田中常務は「日専校の皆さん、日立と一緒に成長し続けましょう」と生徒を激励されて会場を後にされた。

1年生社史見学

秋の好天に恵まれた10月19日、1年生の社史見学会を実施した。今年度は日立オリジンパーク・熊野神社・日鉦記念館をクラス毎に分かれて見学した。オリジンパークでは、各クラスを2グループに分け、それぞれ案内者をつけて説明いただくなど手厚いサポートをいただいた。また、熊野神社では神社説明、参拝の作法



1年生社史見学

に加え、日専校への応援メッセージまでいただき、大変心に残る参拝となった。今回もスマホで回答するクイズが出たため、みな100点をめざし、興味を持って見学会に臨んでいた。日専校では、社史見学会を日立製作所と学校の歴史を实地で学べる貴重な機会と位置づけ、今後も継続実施していく。

茨城県高校ソフトテニス 新人大会 男子個人戦第2位 団体戦ベスト8

10月下旬の県北地区予選結果により、団体戦(2位通過)と個人戦2ペアが県新人大会に出場した。初日11月3日の個人戦では、大内拓海(2年溶接科)・鈴木玲音(2年機械科)ペアは2回戦からの出場となったが、地区1位の実力を発揮して、2回戦から準々決勝までの4試合で、失ゲーム1と、圧倒して準決勝まで進んだ。一方の山本歩・嶋田龍聖(いずれも1年機械科)ペアは、地区予選で、ギリギリでの通過となったが、初戦(1回戦)を僅差で勝つと、2回戦では県西地区1位のペアを破ってベスト32となった。ベスト16入り(次大会シード)はならなかったが、地区予選後の努力が形になった。大内・鈴木ペアは、準決勝で王者・霞ヶ浦高校の主力ペアと対戦し、「ダブルフォワード」という変則的な陣形を取る相手に4-1で勝利して決勝に進出した。決勝では、霞ヶ浦の



茨城県高校ソフトテニス新人大会 男子個人戦第2位

エースで、1年生ながら団体にも出場したペアにゲームカウント3-2とリードするが、逆転を許して惜しくも準優勝となった。県個人戦におけるベスト4以上の進出は、創部初である。11月4日の団体戦初日では危なげなくベスト16まで進み、2日目へ勝ち残った。本校は、ここ2年間の関東・インターハイの両県予選においてはベスト8以上であったが、新人大会だけはこの壁を破れていなかった。そのため今回はベスト8入りを最低目標として取り組んできたが、2日目の初戦で銚田一高に3番勝負の末に勝利し、念願のベスト8入りを果たした。新人大会では初のベスト8、初の県選抜インドア大会出場を決めた。個人戦はベスト8のうち6ペアが霞ヶ浦高校、団体戦も強豪私学がひしめく中、他校と

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

比較し、様々な面でハンディキャップがある中で、「何苦楚(なにくそ)精神」を持って取り組んでいる選手を讃えたい。中国古典の『詩経』には、「初め有らざるなし克(よ)く終わり有る鮮(すくな)し」とあり、「何事も始めるのは簡単だが、それを終わりまで全うする人は少ない」という意味である。簡単に物事を諦めたり、相手との力関係や課題の難易度で萎えてしまう高校生が多い中、部活の取り組みで「なにくそ」と踏ん張り、継続する力をつけて欲しい。近年、部活動のあり方が話題になっているが、人間力の向上を『目的』とし、それが競技結果『目標』につながることを信じた。

技能五輪全国大会

電気溶接職種出場

23歳以下の若手技能者の日本一を決める大会である「第61回技能五輪全国大会」の電気溶接職種で、茨城県代表として3年溶接科の黒田大貴と佐藤琉の二名が出場した。千葉市の高度ポリテクセンターを会場に行われ、各企業の選手と肩を並べ、競技を行った。在校中に出場することが出来るのはこの一度だけであり、約2年間この日のために練習を行ってきたので、二人ともかなり緊張して競技に挑んだ。競技が進むにつれて落着きを取り戻し、若干のミスはあったが、練習の成果を出して、時

間内に課題を作成、提出することができた。今回の出場を目指すに当たり、一般の部活動と並行して練習に取組む特別活動として、時間が十分に取れない中で溶接が上手く行かずに落ち込むこともあったが、強い意志で出場を果たした。本番で今でできることができたのは、今後、本人たちの成長に繋がるに違いない。

3年溶接科 黒田 大貴

今回、技能五輪を経験して、様々な方々と繋がりを持て、多くの経験や学ぶことができました。皆さんにサポートしていただき、大会に出場できたのは当たり前のことではないと思います。事業所に配属された後も技能五輪で金メダルを目指し、挑戦を続けたいと考えています。一日一日を大切に、結果で皆さんに恩返しをしたいと思えます。技能五輪に挑戦して得られたことを、会社での生活にも活かしていきます。



技能五輪全国大会出場 左：黒田 右：佐藤

3年溶接科 佐藤 琉

私が技能五輪の活動を通して感じたことは、継続力、向上心の重要性です。訓練では同じことを何度も繰り返して行います。その中でこの二つが欠けてしまっていると、技能はなかなか向上していかないと感じました。工場に行っても技能五輪に挑戦し続けたいと考えていますので、継続力、向上心を忘れずに練習をして金メダルを目指します。工場生活でもこの二つを常に頭に入れて頑張っていきたいと思えます。

技能五輪全国大会見学

生徒を対象に技能五輪全国大会の見学を実施した。11月10日には、1、2年生の溶接科15名が千葉県の高度ポリテクセンターで行われた電気溶接職種を、11月11日には、1、2年生の希望者37名が茨城県の佐和グローバル教育センターで行われたプラスチック金型職種を、11月15日には、1、2年生の機械科38名が同じく佐和グローバル教育センターで行われた精密機器組立て職種を、それぞれ見学した。見学対象者は、日頃、学んでいる実習に関係の深い職種の競技を対象として選定した。いずれも全体開会式の前から行われている競技であったためか、見学者は参加した企業関係者が多かったが、全国大会独特の張りつめた空気があり、見学した生徒にもその緊張感が伝わったようであった。数年後に自

分たちが全国大会に出場するイメージを、今の時点で具体的に持つことは難しいが、「挑戦してみたい」との声も多く聞かれた。



技能五輪全国大会見学

日専祭保護者会

11月18日、恒例行事である、日専祭保護者会を開催した。今年度も在校生家族のみの入場としたが、家族ごとの人数制限は設けず、4年ぶりに盛大に実施できた感がある。午前中は各科に分かれた実習授業参観、体育館での全体会およびステージイベント、午後は部活混合で4種類のレクリエーションを行った。イベントは全て生徒考動アクション委員会が事前に話し合い、準備を進めてきた。特に体育館ステージでは、全4クラスが動画、歌、ダンス等を交え、素晴らしい発表を披露した。締めくくりは、日工同窓会の先輩方によるお心遣いの抽選会を実施した



日専祭保護者会

き、全員に品物が行き渡った。秋晴れの中、活気に溢れ、思い出深い一日となった。

新任者紹介



富田 健一先生
出身事業所…三菱
菱重工業(株)
担当…製図実習
10月より三菱

重工株式会社から出向にて異動し、日専校で働かせていただくことになりました。初めて教育の現場に入ることとなりますので、不安なところはございます。しかし、生徒たちと一緒に日々努力し、少しずつでも成長していきたいです。沢山の卒業生と同じように、職場で活躍できる人財を送り出せるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願います。